日本福祉大学大学院
スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻 修士課程

2026 年度 第 2 期入学試験問題
【小論文（AO 入試・一般入試）】

問 1　共通設問

【出題の意図】
本設問は、夏季に開催される国内トップレベル競技大会における暑熱対策を題材に、受験者が
1）スポーツ現場における安全管理およびリスクマネジメントの重要性を理解しているか
2）提示された具体的事例から、競技運営上の判断理由を適切に読み取れるか
3）競技性の維持と選手の安全確保をどのように両立させるべきかを論理的に考察できるか
を、評価することを目的とする。
特に、WBGT 値などの科学的指標や競技団体のガイドラインを踏まえた運営判断について理解し、単なる事実の説明にとどまらず、現代スポーツに求められる運営の在り方を論じる力を問うものである。

【解答例】
近年の夏季スポーツ大会では、地球温暖化や猛暑の影響により、選手の健康と安全をいかに確保するかが重要な課題となっている。提示された記事は、日本選手権混成競技および日本選手権リレーにおいて、暑熱対策を目的として競技日程が変更された事例を示している。
日本陸連は、日本スポーツ協会が示す「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」に基づき、暑さ指標である WBGT 値が基準を超える可能性が高いことを踏まえて、競技開始時間の変更や競技中断を判断した。WBGT 値は気温だけでなく湿度や輻射熱も考慮した指標であり、科学的根拠に基づくリスク評価として、近年の競技運営において重要な役割を果たしている。
混成競技は長時間にわたり複数種目を行う特性があり、暑熱環境下では熱中症リスクが特に高まる。今回のように競技時間帯を調整することは、選手の安全確保を最優先とした合理的な対応である一方、競技進行の遅延や観客対応、放送スケジュールへの影響といった運営上の課題も生じる。
しかし、競技の公正性や記録の価値は、選手が安全な環境で競技できてこそ担保されるものである。そのため、暑熱対策による日程変更は競技性を損なうものではなく、むしろ現代スポーツにおいて不可欠な運営判断といえる。
今後の競技大会では、暑熱対策を一時的な対応としてではなく、大会計画段階から組み込むことが求められる。科学的指標に基づく判断と柔軟な運営体制を整えることが、持続可能で安全なスポーツ大会の実現につながると考えられる。

問２　選択設問

領域名	人文社会科学領域

【出題の意図】
現在、実際に生じている、スポーツに関わる社会的課題を理解し、それに対する対応策を考えさせる問題である。この問題には以下の三つの意図がある。
①スポーツに関わる社会的課題に関心を持っており、それに関わる一定程度の知識、情報を持っているかどうか。
②社会的課題に対して論理的な思考でその解決策を見出すことができるかどうか
③スポーツ科学に関する諸課題を解決しようとする意志と能力があるかどうか（本研究科のアドミッションポリシー）。

【解答例】
水泳は、子どもたちが水に親しみながら**「水中で安全に行動する力」や「自己の生命を守る術」を身につけるための重要な学習領域である。特に日本のように海や川に囲まれた地域が多い国では、水難事故のリスクが日常的に存在するため、水泳授業は単なるスポーツ技能の習得にとどまらず、「水辺における安全教育」**としての意義を強く持っている。また、心肺機能の向上や体力の涵養、心身のリラックス効果といった健康教育の一環としての価値も高い。
しかし近年、学校プールの老朽化や維持管理の負担、教員の専門性の不足、安全管理上の懸念などから、水泳授業の継続が難しくなっている。笹川スポーツ財団の調査でも、民間施設の利用や外部委託が進んでおり、廃止を検討する自治体も一定数存在している。今後は、学校単独での実施にこだわるのではなく、地域全体で子どもたちの水中安全能力を育てる体制を整備すべきである。そのためには、民間施設の活用、専門人材の派遣、移動手段の確保と保護者の理解促進といった課題に、自治体と学校が連携して取り組む必要がある。水泳の授業は、生涯にわたる安全行動と健康づくりの土台となるべきであり、形式的履修ではなく実効的な学びとなる環境整備が急務である。

領域名	自然科学領域

【出題の意図】
本設問は、世界陸上競技連盟（WA）が示した女子選手の参加資格に関する新たな方針を題材に、受験者が
1）競技力向上や競技の公平性を確保するための国際競技団体の判断を理解しているか
2）科学的根拠に基づく競技区分と、人間の尊厳・人権配慮との関係性を整理できるか
3）現代スポーツが直面する倫理的・社会的課題について多角的に考察できるか
を、評価することを目的とする。
特に、競技スポーツにおける「公平性の確保」と「個人の尊厳・権利の尊重」という、時に対立し得る価値をどのように調和させるべきかについて、論理的かつ冷静に論述する力を問うものである。

【解答例】
競技スポーツにおいては、競技力を公正に競い合う環境を整えることが不可欠である。提示された世界陸上競技連盟（WA）の声明は、女子競技における公平性を確保するため、生物学的性別の確認を目的とした遺伝子検査を導入する方針を示したものである。
陸上競技では、筋力や持久力、骨格構造など、生物学的要因が競技成績に大きく影響する。そのため、男女の競技区分は、競技の成立条件として長年維持されてきた。WA が示した検査は、女子カテゴリーにおける競技条件の均一性を担保し、競技力の比較可能性を確保することを主な目的としていると考えられる。
一方で、遺伝子検査という手法は、選手個人の身体的特性に深く関わるものであり、人間の尊厳やプライバシーへの配慮が不可欠である。競技力の公平性を理由に個人に検査を義務付けることは、場合によっては精神的負担や社会的烙印につながる可能性も否定できない。
したがって、本件は競技力と人間の尊厳という二つの価値の間で慎重なバランスが求められる課題である。WA が検査を一生に一度とし、各国陸連が責任を持って実施するとしている点は、過度な負担を避けるための配慮と捉えることができる。
今後の国際競技運営においては、科学的根拠に基づく公平性の確保と同時に、選手一人ひとりの尊厳や人権を尊重する姿勢を明確に示すことが重要である。競技力の追求が人間性を損なうことのないよう、透明性と対話を重ねながら制度を運用していくことが、現代スポーツに求められる姿勢であると考えられる。